

家族の核となる場所。

Nさんご夫婦と初めてお会いしたのは今から3年程前の事で、その時の印象を今でも憶えています。とても若々しく明るい印象のご夫婦でしたが、お話を伺っていると、その好みは何処か古風な感じ…。単に木の家が好きと言うことではなく、「和」の心を大切に行っているお二人だと感じました。そして、具体的な間取りの希望の中にも「和」のテイストは色濃く現れ、建具は障子や襖を多く使い引き戸に。また、和室には掛け軸を飾る為に、本格的な床の間も設けました。床の間と言っても造り方は様々ですが、今回は、杉の磨き丸太を床柱にたて、畳の送り床とし、檜の幅広板を地板に使用しました。全体的に白木でまとめられ、凛とした雰囲気のある床の間になったと思います。

最近の家造りの中では、和室を設けても床の間を設けるゆとりはなく、そのスペースを押し入れや洋服入れなどに使っていました。今回改めて床の間を造らせて頂き、ちょっとしたゆとりのある空間が、その部屋の雰囲気高め、家族にとって核となる大切な場所になるのだと感じました。



客間に設えた床の間。床柱に杉の磨き丸太を使い、畳の送り床とした。全体的に白木でまとめ、凛とした雰囲気のある床の間になった。



押し入れには、淡い色の市松柄の襖を使った。ちょっと冒険して決めた襖だったが、とても部屋に馴染み気に入っている。



玄関に採光と通風を取る為に引分け障子を取り入れた。この障子縁に来客の様子なども分かり重宝している。

和のテイストを暮らしに取り入れる。

障子や襖、格子戸など、これら「和」のテイストは、単に和風の家に合わせたデザインということではなく、とても優れた機能を合わせ持っています。

障子は一枚の紙を貼って出来ていますが、窓ガラスの内側に取り付けると冷気を止め、優れた遮熱効果を発揮します。また、和紙で出来ているので光の透過具合もちょうど良く、吸湿効果も期待できます。また、玄関などに使う格子戸は、光を室内に取り入れると共に防犯の役割を果たします。

これらは古く昔から使われてきたデザインですが、障子や格子の棧の間隔や太さ、素材などを変えることによって様々な雰囲気になり、現代の家にもマッチしたデザインになると思います。日本の伝統を上手に使い、快適で心地よい暮らしを手に入れてください。



暮らしの彩り

完成現場報告 掛川市『春の家』

2月に入りまだまだ寒い日が続いていますが、暦の上ではすでに立春を過ぎました。皆さんは『春』という言葉を知ると、どんなイメージを持ちますか？明るく暖かなイメージはもちろんですが、草木の芽吹きや開花など、私たちの暮らしに彩りを与えてくれる、とても楽しみな季節ですね。今回はそんな「彩りある暮らし」を『春』というタイトルに込めながら家造りを行わせて頂いた、Nさんのお宅をご紹介します。

文・写真 山崎健治



キッチンより広間を望む。大きなテーブルは、食事の他にもいろいろと使われ、生活の中心となっている。大きな引分け障子から差し込む光はとても柔らかく、パナの床板の風合いと合せて温かな雰囲気がこの部屋を包み込んでいる。



KITCHEN

- 1: アイランド型に置かれたシンク台には、機能シンクと合せて大きな作業スペースを確保した。引出しや食器洗浄機も設置し、多機能なシンク台になった。
- 2: 二の字型に配置されたキッチン。シンク台とコンロ台は、それぞれの使い方を分けたため 10cm の差が設けられている。どちらも使いやすい高さだと好評です。
- 3: ダイニング側からキッチンを望む。ダイニングテーブルとチェアは、家の設計段階から「コレ」と決めていた。テーブルは家の素材と合せて、タモ材で作ってもらった。
- 4: シンク台とテーブルとの間に 1m10cm のカウンターを設けた。目隠しの機能と合せて、小引出しやグラス収納も設けられ、テーブル側からの作業もとても便利。
- 5: 長さ 3.5m のコンロ台。75cm と低くしたカウンターは、鍋振りなどの作業性と合せて、パン打ち台としても使っている。カウンターの上下に作りつけた収納力は抜群です。

家事を楽しむキッチン。

和のテイストと合わせてこだわったのは、キッチンではないでしょうか。お料理はもちろん、パンやお菓子も作る奥さんにとって、キッチンの作業動線や収納場所、調理器具の置き場所も予め考えておくことは重要で、ストレスなく料理を楽しんでもらう為に、それらを少しゆとりのある大きさにしました。出来上がったキッチンは全体的に少し大きめのキッチンで、たくさんの収納力を持っています。二の字型に配置したシンク台とコンロ台のどちらにもたくさんの収納場所があり、加えて、食器洗浄機やガスオーブンなどの設備も備えてあります。また、コンロ台の高さは 75cm と低く設定し、鍋振りなどの作業性と合わせて、パン打ち台としての目的で使用できるように作りました。今回の取材の際に「まだまだこれからですが、気に入ったキッチンの道具を揃えていくのが楽しみ」と話してくれた奥さんは、とても楽しそうでした。



奥さんお気に入りの藤で編まれたポット。この家の雰囲気にはピッタリ!



玄関の軒裏は、細かなピッチで垂木が掛けられている。漆喰壁と合わせて清潔感のある玄関になった。
 玄関には、タモで造った大きな玄関収納を備えた。傘やスリッパの置き場所も考えられている。
 青森ヒバとサーモタイルで造った浴室。ヒバの香りがとても爽やかで心地良い浴室と評判です。
 タモのカウンターに小さな手洗器を付けた。前面にタイルを貼り、デザインと水跳ね防止を兼ねている。
 4.5 帖の納戸。真四角の収納部屋は周りに衣類を置いて、部屋の中心で着替えなどが出来るとも便利。

ちよつとしたゆとりで、彩のある暮らし。

家造りの中で、耐震性や健康的な暮らしを重視することはもちろんですが、今回の N さんの家造りを通して、住まいの中に「ゆとり」を造る事も、家造りの中では大切な事だと改めて感じました。ちよつとしたゆとりの空間を造る事で、季節の節目や行事を楽しんだり、家族の心の拠り所になったり…。また、ちよつとしたゆとりある物を造る事で、ストレスなく家事を楽しめ、新しいチャレンジへの力が湧いてきます。そして、そのゆとりの中に、彩のある暮らしが生まれ、日々の生活を楽しむ事が出来るのだらうと思います。春はもうすぐそこまでやってきています。暖かな風や光と合わせて、春の彩りをこの家に招き込み、日々の暮らしを楽しんでいただきたいと思えます。



薪ストーブは、SCAN の CI-1GCB。小型だが、暖房能力の大きいストーブ。(残念ながら昨年で廃盤になってしまった)

仕様内容

家族構成	家族 4 人
敷地面積	284.17 m ²
建築面積	94.76 m ²
延べ床面積	145.74 m ²
構造	通し貫構造 2 階建て

屋根	陶器瓦葺き
外壁	ガルバリウム鋼板 角波縦張り 木摺り下地 漆喰塗り
外部建具	アルミサッシ+ヒバ木製建具 (ペアガラス)
天井	杉本実板張り+EP塗り
壁	漆喰塗り+EP土塗り
床板	パナ乱尺板+杉本実板
内部建具	タモ+杉/オリジナル
浴室	青森ヒバ板張り+サーモタイル貼
キッチン	洗面/オリジナル
浴室	浴槽/INAX

設計者 山崎健治
 施工 有限会社こころ木造建築研究所